

## 斑点米カメムシ類

### ○ 被害と発生生態

山口県で斑点米を発生させる主要なカメムシ類は、クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ等である。カメムシ類が未熟な粳を吸汁することにより不稔粒、死米、斑点米を発生させたり子実の肥大阻害を起こすが、こうした米の混入率が高くなると等級が落ちる。

カメムシ類は、イネが出穂するまでは水田周辺の雑草地等でイネ科雑草（エノコログサ類、ヒエ、メヒシバ等）の穂を吸汁しているが、イネの出穂期以降は水田に移動し、イネの穂を吸汁する。カメムシの種類により粳を加害する時期が異なりその被害の状況も異なる。

山口県では主に8月上旬までに収穫するイネ（コシヒカリ等の極早生種）が作付されている場所で被害が比較的多く、地域の作型が多様な場合には、カメムシ類が周囲よりも出穂が早い水田に集まりやすく被害も多い。また、イネ科雑草が繁茂する休耕田や雑草地、畦畔の周囲では被害が多くなる。

### ○ 防除方法

#### （ア）耕種的・物理的防除

- ・休耕田のイネ科雑草（エノコログサ、ヒエ、メヒシバ等）が発生源となっている場合が多いので、水田周囲の休耕田の雑草管理を徹底する。
- ・草刈りはイネの出穂2週間前（7月中下旬）までに済ませ、それ以降はイネ科雑草が出穂しないよう管理する。出穂期や出穂直前に草刈りをするとカメムシ類の水田への移動を助長し逆効果となる。

#### （イ）薬剤防除

- ・クモヘリカメムシが多いほ場ではイネの穂揃期（80～90%が出穂）と穂揃期7日後の2回、粉剤、液剤等で防除を行う。特に、8月上旬までに収穫するイネ（コシヒカリ等の極早生種）では徹底する。なお、防除は穂揃期7日後の効果がより高い。
- ・アカスジカスミカメ等小型のカメムシ類の発生が多いほ場では、粒剤では出穂期、粉剤では穂揃期に防除を行う。
- ・防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて防除を実施する。
- ・カメムシ類は広範囲で移動するので、広域で一斉に防除を行うと効果が高い。



クモヘリカメムシ  
(体長 16.0mm 前後)

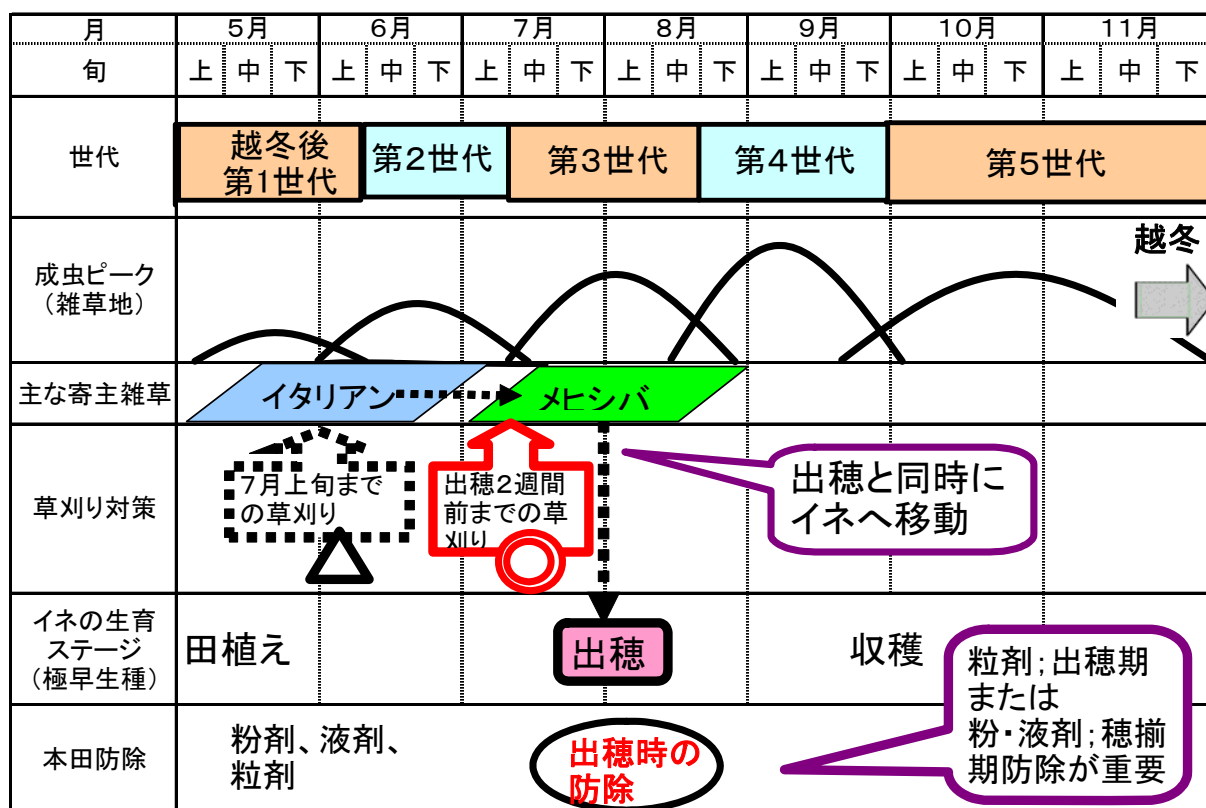


アカスジカスミカメ  
(体長 4.5 ~ 6.0mm)



ホソハリカメムシ  
(体長 9.0 ~ 11.0mm)

## アカスジカスミカメの発生及び対策モデル



## クモヘリカメムシの発生及び対策モデル

